

平成27年第11回福岡県教育委員会会議（臨時会）会議録

1 開催日時

平成27年5月26日（火）14時00分から14時12分まで

2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

3 出席委員

住吉徳彦、奥田竜子、清家渉、久保田誠二、宮本美代子、城戸秀明（教育長）

4 欠席委員

なし

5 出席事務局職員

教育次長 西牟田龍治、理事 友野晃、総務部長 川添弘人、
教育企画部長 吉田法稔、教育振興部長 辰田一郎、総務課長 木原茂、
高校教育課長 中島良博

6 傍聴者等数

1名

7 会議

14時00分、住吉委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

非公開の発議なく公開と決定された。

（1）議事

- ・第19号議案 福岡県立中学校及び福岡県立中等教育学校入学者決定に関する方針について

中島高校教育課長から、当該方針の変更点について説明があった。

福岡県立中学校及び福岡県立中等教育学校入学者決定方法のうち、作文については、これまでは各学校で問題を作成するものとしていたが、各学校の問題作成に係る負担軽減、作文問題の質的向上を図る観点から、今後については、県教育委員会作成へと変更する旨の説明があった。

次いで審議が行われ、住吉委員長から、これまでは、各学校の意見を尊重し、各学校で作文問題を作成することにより各学校の独自色を打ち出し

ていたと思うが、今回の変更について学校の意向はどうであったかとの質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、評価の観点については各学校に一定の裁量があり評価段階において各学校の独自性が担保されること、また、面接においては従来どおり各校独自の質問となっていることから、各校の特色や求める生徒像に応じることはできると考えている旨の説明があった。また、今回の改定の方向性について各学校に打診したところ、全ての学校において負担軽減を歓迎する意向であったとの説明があった。

次いで、住吉委員長から、各学校において、学習についていけない生徒への対処方法についてどう考えているかとの質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、各学校と課題意識は共有しており、各学校も努力を続けている。今後も連携して指導を行っていききたい旨の説明があった。

これに対して、住吉委員長から、学習についていけない生徒への方策を、選考方法も含めて、今後も検討してもらいたい旨の要望があった。

次いで、住吉委員長から、今年度新たに開校した中学校については非常に高い志願倍率であるが、既設の3校については次第に倍率が下がっている状況であり、どのように考えているかとの質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、今年度開校した福岡県立宗像中学校で8.08倍、福岡県立嘉穂高等学校附属中学校で6.29倍と非常に高い倍率であったが、既設3校については平成16年度の開校以降、徐々に倍率が下がってきている状況である。少子化も一つの原因であると思うが、既設の学校が上げている成果内容が上手く伝わっていないということもあると思うため、各学校と連携を取りながら、近隣学校や地域にその意義を伝えていきたい旨の説明があった。

次いで、城戸教育長から、少子化により全体的に生徒数が減少しているなかで、県立中学校だけ現状の学級数を維持していくことが妥当かどうかについて、県民の期待もあると思うが、近隣の市町村立中学校との関係も考えていく必要があるため、今後の課題として県教委として検討していきたい旨の説明があった。

住吉委員長から、他の意見の有無を問い、これについては承認された。

住吉委員長が閉会を宣言し、14時12分閉会した。